

令和6年度 事務事業評価表

事務事業名	1 ボランティア推進事業		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標2ー実施計画1ー(2)ボランティア活動者の支援と促進、実施計画2ー(1)ボランティアコーディネート機能の充実、(2)ボランティア活動の支援他			
根拠法令等	ボランティアセンター設置及び運営規程、助成金交付規程、初めてのボランティア体験学習事業実施要領他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	地域住民のボランティア活動を推進するため、理解と関心を深め社会連帯意識の高揚とボランティア間の交流を図り、組織的なボランティア活動の育成や援助、及び市内小中学校、高等学校の福祉教育の推進を行い社会福祉の増進に資する。					
実施内容	<p>【ボランティアセンターの運営】 ( ) 内は前年度数値</p> <p>1 相談、援助活動、需給調整</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア事業参加者総数 <u>589名</u> (356名)</li> <li>・ボランティア活動保険加入 加入者数1,665名 (1,829名)</li> <li>・ボランティア登録 個人40名 (57名)、65団体 (64団体)</li> <li>・ボランティア活動件数109件 (56件)、活動延べ人数349名 (138名)</li> <li>・ボランティア活動に関する相談件数138件 (91件)</li> <li>・ボランティアグループ、個人への継続支援 (必要時にグループの会合に参加し相談、支援を随時実施)</li> <li>・ボランティア連絡協議会への援助 (活動の場の提供、活動の支援)</li> <li>・ボランティアセンター備品貸出 延べ回数：車椅子184台 (132台)、小型点字器221台 (67台)、アイマスク115枚 (93枚)、高齢者疑似体験セット32セット (14セット)、白杖48本 (0本)</li> <li>・福祉用品等リサイクル事業の実施 提供品34件 (40件)、譲渡品59件 (71件)</li> </ul> <p>2 広報、啓発、調査活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協だより、ホームページ、SNSなどを活用してボランティア情報の発信、情報誌配付、チラシ配付</li> <li>・ボランティアに関する情報収集 ボランティアコーディネーター連絡会参加、他機関との情報交換</li> </ul> <p>3 ボランティアの育成及び研修活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアのつどい ボランティア研修・交流会、参加者：<u>12名</u> (16名)</li> <li>・初めてのボランティア体験学習事業の実施 参加者：<u>166名</u> (154名)</li> <li>・ボランティア講座の実施             <ul style="list-style-type: none"> <li>①はじめてのシニア向けZOOM体験講座 参加者：<u>10名</u> (9名)</li> <li>②災害ボランティアセンター運営講座 参加者：<u>26名</u> (15名)</li> </ul> </li> </ul> <p>【ボランティアセンター機能充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアセンター運営委員会の開催：2回実施</li> <li>・ハートサロンの運営 活動者<u>8名</u> (7名)、実施19回 (18回)、延べ113名 (108名)</li> <li>・文京学院大学地域連携センターBICSとの連携</li> <li>・その他関係機関、団体、企業等との連携、グループホーム運営推進会議出席</li> </ul> <p>【福祉教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉教育推進校への助成援助 市内小学校13校、中学校6校、ふじみ野高等学校</li> <li>・福祉教育推進校連絡会議 福祉教育実施報告及び事業計画、手話体験 参加者：<u>18名</u> (16名)</li> <li>・福祉活動推進のための連絡、調整及び支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>①福祉体験学習への協力 小学校12校 (10校)、中学校5校 (2校)、実施回数56回 (28回)</li> <li>②「福祉教育推進マニュアル」の活用</li> <li>③福祉の心を育む交流事業の実施 実施施設：2施設 (2施設)、実施学校：6校 (6校)</li> </ul> </li> </ul>					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
成果	ボランティアセンター事業参加者人数	前年度実績	名	目標	220	356	589
				実績	356	589	
成果	ボランティア活動件数	前年度実績	件	目標	24	56	109
				実績	56	109	
成果	初めてのボランティア体験学習参加人数	前年度実績	名	目標	136	154	166
				実績	154	166	

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定財源	ボランティア体験学習事業費補助金収入	260,000	260,000	
		地域保健福祉活動事業費補助金収入	180,000	0	
		特定財源合計 (a)	440,000	260,000	
		一般財源 (b)	1,284,813	1,068,898	
	収入合計 (c)	1,724,813	1,328,898		
支出	事業費 (b)	1,724,813	1,328,898		
	正規職員人件費	814,300	781,800		
		業務量(人)	0.1	0.1	
	嘱託職員人件費	3,524,370	3,390,390		
		業務量(人)	0.87	0.87	
	臨時職員人件費				
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	4,338,670	4,172,190	
	支出合計 (f)	6,063,483	5,501,088		

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		ボランティアセンター事業参加者人数		
実績数値 (g)		356	589	
単位当たりコスト(円) (f/g)		17,032.3	9,340.0	
実質収支比率(%) (c/f)		28.4	24.15	

実施状況に対する評価	<p>コロナ感染症は一旦の収束となりコロナ禍前の生活に戻ってきているため、福祉施設の受入やサロン活動が再開され、ボランティア相談や活動も活発に実施する方向に動いてきた。初めてのボランティア体験学習は、子育て関連施設の受入れが再開された事により参加者の数も増加することができた。また、災害ボランティアセンター運営講座は定例講座として関係機関や市民等に積極的に参加いただき、発災時の災害ボランティアセンター運営について学ぶことができた。</p>
------------	--

今後の方向性【拡充】	<p>ボランティア活動の復活には、他事業や他機関との協力体制が重要となり、双方の活動内容・情報共有の体制づくりが必要となる。また、現存するボランティア団体や個人のボランティアの発掘や活動支援をすすめていくため、ホームページや公式SNS等による情報の発信を行い、ボランティア活動の向上推進に努めていく。</p>
------------	--

令和6年度 事務事業評価表

事務事業名	2 支部育成・支部活動助成事業		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標 1－実施計画 2－(1)社協支部の基盤整備、(2)見守り活動の推進(3)、自治組織との連携強化他			
根拠法令等	支部設置及び運営に関する規程、支部活動助成金交付規程、支部活動推進委員会設置規程他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	地域の实情に応じた社会福祉事業を進めるため、自治組織単位を原則とする支部を設置し、小地域活動の推進を図る。またその推進にあたっては社協財源及び共同募金会による支援のもと、支部活動助成金や運営支援活動を行う。					
実施内容	<p>【自治組織に対する支部設置数】 ( ) 内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支部設置数 56支部 (56支部)、自治組織数 58自治組織 (58自治組織)</li> </ul> <p>【会議・研修会等の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支部長会議の開催 4月、9月、2月</li> <li>支部活動推進委員会 7月、1月</li> <li>支部長交流研修会の開催 参加者41名 (61名)</li> <li>福祉委員研修会の開催 参加者63名 (68名)</li> </ul> <p>【社協支部活動への助成支援】</p> <p>【高齢者情報誌「福寿草」の配布】</p> <p>毎月1回15日発行 1回につき4,922部 (4,918部)</p> <p>【支部車椅子貸出事業の実施】</p> <p>貸出19件 (11件)</p> <p>【ふれあい・いきいきサロンの実施】</p> <p>51支部 (52支部) 471回 (403回)</p> <p>【見守り活動】</p> <p>477チーム (499チーム) 1,511名 (1,662名)</p> <p>【新入学お祝い事業】</p> <p>40支部 (41支部)</p>					

指 標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
活動	支部長会議回数	事業計画	回	目標	3	3	3
				実績	3	3	
成果	ふれあい・いきいきサロン開催回数	前年度実績	回	目標	215	403	471
				実績	403	471	
成果	支部設置数	全自治組織数	支部	目標	58	58	58
				実績	56	56	

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	一般募金配分金収入 (赤い羽根)	1,172,959	1,146,946	
		歳末たすけあい配分金収入	2,199,660	2,051,354	
		特定財源合計 (a)	3,372,619	3,198,300	
		一般財源 (b)	3,773,702	3,591,445	
	収入合計 (c)	7,146,321	6,789,745		
支出		事業費 (d)	9,872,771	9,523,667	
		正規職員人件費	5,700,100	5,472,600	
		業務量(人)	0.7	0.7	
		嘱託職員人件費	2,835,700	2,338,200	
		業務量(人)	0.7	0.6	
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	8,535,800	7,810,800	
	支出合計 (f)	18,408,571	17,334,467		

単位当たりコスト(円)	R4	R5	R6
単位の定義	支部数		
実績数値 (g)	56	56	
単位当たりコスト(円) (f/g)	328,724.5	309,544.1	
実質収支比率(%) (c/f)	38.8	39.17	

<b>実施状況に対する 評価</b>	<p>支部活動の推進と強化は社協の柱となる事業である。支部の取り組み、サロン活動については地域によって差があり、支部福祉委員の高齢化、担い手不足の課題がある。生活支援体制整備事業、重層的支援体制整備事業と協働し支部活動の推進と強化が必要である。</p>
------------------------	--

<b>今後の方向性 【拡充】</b>	<p>地域福祉活動の柱となる支部活動の充実は、社協の事業推進に必要な仕組みであるため取り組みを拡充していく。各社協支部の要請に応じて活動するボランティアを養成し、新たな担い手の確保と支部活動の安定した運営のために（仮称）支部活動お助けボランティアを養成する。。また、市内58自治組織中56支部が設置されているが今後も継続して、新たな支部設置に向けて働きかけをしていく。</p>
------------------------	--

令和6年度 事務事業評価表

事務事業名	3 住民参加型在宅福祉サービス事業 (ふれあいサービス事業・産後ヘルパー派遣事業)		担当	地域福祉係	事業種別	自主事業
開始年度	平成21年度	計画体系	基本目標1-実施計画2-(4)子育てしやすい地域づくり「住民参加型在宅福祉サービス事業」(ふれあいサービス事業・産後ヘルパー派遣事業)			
根拠法令等	ふれあいサービス事業実施規程、産後ヘルパー派遣事業実施規程					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	<p>社協会員が地域福祉の一環として会員の相互扶助の精神に基づき、当該世帯の自立と在宅福祉の向上を図るため、必要な費用の負担を求め、提供したサービスに応じて費用を弁償する。</p> <p>また、産後間もなくの体調がすぐれず、育児不安等のため精神的に不安定になりがちな母親の負担軽減などを支援することを目的に、協力員による家事援助等を行い、母子福祉の向上をはかる。</p>					
実施内容	<p>【利用の流れ】 電話にてサービス内容説明⇒訪問等で利用申請手続き⇒利用希望確認(サービス内容、利用日)⇒協力員マッチング⇒利用券販売⇒サービス利用</p> <p>【毎月の作業】 月末締め翌月5日までに協力員が利用券を社協窓口に持ってくる⇒10日までに費用弁償支払いのための事務処理⇒15日費用弁償支払い</p> <p>【協力員情報交換会】 登録協力員を対象に活動状況報告及び情報交換を実施 令和6年3月22日 協力員5名</p> <p>【協力員募集講座】 市報、社協だよりに掲載し受講者を募集し実施 令和5年10月にふれあいサービス事業についての説明と「支援を必要とする方に”寄り添う”ということ」「お掃除講座」をテーマに養成講座を実施 参加者11名</p> <p>【令和5年度利用実績】( )内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数 ふれあいサービス 13名 新規8名(10名 新規0名) 産後ヘルパー 11名 新規11名(7名 新規7名)</li> <li>協力員 29名 新規7名(23名 新規0名)</li> <li>派遣回数 ふれあいサービス 369回(334回) 産後ヘルパー 157回(74回)</li> <li>派遣時間 ふれあいサービス 506.75時間(501時間) 産後ヘルパー 281時間(136.5時間)</li> </ul>					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
成果	ふれあいサービス 新規利用者数	利用者数の2割	名	目標	4	2	2
				実績	0	7	
成果	産後ヘルパー新規 利用者数	前年度実績	名	目標	19	7	11
				実績	7	11	
成果	新規協力員数	養成講座定員の2割	名	目標	4	4	4
				実績	0	7	

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	共同募金助成金	269,420	454,780	
		利用料	510,000	632,400	
		特定財源合計 (a)	779,420	1,087,180	
		一般財源 (b)	409,000	469,000	
		収入合計 (c)	1,188,420	1,556,180	
支出		事業費 (d)	833,912	1,500,765	
		正規職員人件費			
		業務量(人)			
		嘱託職員人件費	810,200	1,169,100	
		業務量(人)	0.2	0.3	
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	810,200	1,169,100	
	支出合計 (f)	1,644,112	2,669,865		

単位当たりコスト(円)	R4	R5	R6
単位の定義	利用者、協力員数合計 (名)		
実績数値 (g)	40	53	
単位当たりコスト(円) (f/g)	41,102.8	50,374.8	
実質収支比率(%) (c/f)	72.3	58.3	

<b>実施状況に対する 評価</b>	<p>新型コロナウイルスが5類に位置付けられたのを機に、産後ヘルパー派遣事業、ふれあいサービス事業ともに新規利用が増加した。多胎児や子どもが複数いる世帯では、産後ヘルパー派遣事業の利用が終了した後も引き続きふれあいサービスを利用する人が複数おり、支援が必要な子育て世帯を社協会員同士の助け合いによる支え合う活動の推進に繋がった。</p> <p>また、ふれあいサービス協力員を募集する講座を開催したところ、新規に7名の協力員が登録し、ふれあいサービス事業や産後ヘルパー派遣事業の担い手として活動することができた。</p>
------------------------	---

<b>今後の方向性 【拡充】</b>	<p>社協だよりや市報等で協力員養成講座を積極的に広報・周知し、受講者に協力員として登録してもらうよう働きかける。また、既に登録している協力員に対しては、スキルアップのための研修や意見・情報交換の場を設けることで、知識や技術の向上と課題共有、悩みや不安を解消しやりがいのある活動に繋がるよう支援する。</p> <p>産後ヘルパー派遣事業では保健センターで対象者にパンフレットを配布してもらい、利用を促すようにする。産前ヘルパーの派遣事業実施に向けて検討を行う。</p>
------------------------	--

令和6年度 事務事業評価表

事務事業名	4 生活支援体制整備事業		担当	地域福祉係	事業種別	市受託事業
開始年度	平成28年度	計画体系	基本目標1－実施計画1－(3)地域住民の福祉意識の醸成、基本目標1－実施計画2－(1)社協支部活動の基盤整備、(3)自治組織との連携強化他			
根拠法令等	介護保険法第115条の45第2項第5号					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	地域福祉サービス区分			
事務事業目的	ふじみ野市で住み慣れた暮らしを続け自分らしい生活を送るために、介護保険サービスのほか、住民主体の支え合い・助け合い活動の創出や、地域資源（人、もの、お金）の発掘、人と人とのつながりをコーディネートしていく。また、地域包括ケアシステムの実現と地域づくりを活性化していく事業である。					
実施内容	<p>生活課題・ニーズの把握・分析・サービスや担い手の創出・ネットワーク化の推進</p> <p>【第1層コーディネーターの業務】（ ）内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア推進会議【第1層協議体】への出席 年3回（3回）</li> <li>・社会資源の把握 社会資源の把握を日常的に行うとともに、令和5年度はつるがまい協議体で鶴ヶ岡マルシェ、かすみがおか協議体でにじいろTIME、あいさつキャラバン、おい協議体でソレイユひろばなど全部で11件の活動となった。（4件）</li> <li>・ボランティア養成講座の実施 「脳トレ問題作成ボランティア養成講座」全3回参加者数37名（未実施） 「サロンDE講師しませんか！2」全3回参加者数22名（3回45名）</li> </ul> <p>【第2層コーディネーターの業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2層協議体の運営支援24回参加者数420名（25回、336名）</li> <li>・第1層協議体との情報交換</li> <li>・出前講座により事業の理解と啓発・社会資源の把握</li> <li>・通いの場＜居場所・活動の場＞の創出の支援。自ら通う事で、介護予防や互助の気づきの場となり、自然な助け合いの場となるように支援する。43回（14回）</li> <li>・地域ケア会議等への出席 74回（63回）</li> </ul>					

指標		指標の根拠	単位	区分	R4	R5	R6
活動	第2層協議体の運営支援回数	総合事業のガイドラインによる定期的な情報共有・連携強化の場として市と協議	回	目標	24	24	24
				実績	25	24	
活動	通いの場の活動の創出支援回数	前年度実績	回数	目標	9	19	43
				実績	14	43	
成果	活動創出箇所	前年度実績	箇所	目標	4	8	11
				実績	4	11	

備考	
----	--

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	市受託金収入	8,665,825	10,766,000	
	特定財源合計	(a)	8,665,825	10,766,000	
	一般財源	(b)			
	収入合計	(c)	8,665,825	10,766,000	
	事業費	(b)	583,878	850,980	
支出	正規職員人件費		2,442,900	1,563,600	
	業務量(人)		0.30	0.20	
	嘱託職員人件費		5,752,420	7,794,000	
	業務量(人)		1.42	2.0	
	臨時職員人件費				
	業務量(人)				
	人件費合計	(e)	8,195,320	9,357,600	
支出合計	(f)	8,779,198	10,208,580		

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		活動の創出		
実績数値	(g)	4	11	
単位当たりコスト(円)	(f/g)	2,194,800	928,053	
実質収支比率(%)	(c/f)	0.987	1.055	

実施状況に対する評価	<p>第2層協議体は4圏域でそれぞれ隔月に開催した。協議体から生まれた住民主体の活動や地域のサロンなど年間233回の伴走型支援を行った。つるがまい協議体では緑ヶ丘マルシェ&amp;カフェは2年目の活動を迎え、鶴ヶ岡マルシェは4月から毎月活動を行ったほか、亀ポッチャチームは文京学院大学BICSとの連携事業を予定どおり4回開催した。おおい協議体では地域共生社会を目指したソレイユひろばが3か月に1回、施設と地域の壁を越えた活動として、SOMPOケアラヴィーレふじみ野との連携事業を実施した。かすみがおか協議体では、あいさつキャラバンの実施、自治会・民生委員・社協支部の三者連携のにじいろTIMEを定期開催した。また、自立支援型地域ケア会議、生活支援体制整備事業担当者会議、介護予防担当者会議など年間74回の会議に出席した。</p>
------------	--

今後の方向性【拡充】	<p>令和5年度は住民主体の活動が増加し、生活支援コーディネーター2名ではオーバーワークとなっていた。本来、地域のサロンをはじめ、地域に出向いて地域資源や地域情報の把握などのアウトリーチができていないことが現状の課題である。令和6年度は生活支援コーディネーター2名の増員が実現し、これまでの活動を継続しながら、地域共生社会の実現を目指してCSWとの連携を図りながら住民主体の活動のさらなる創出やにじいろTIMEやあいさつキャラバンなど他地域での拡大、サロンDE講師という人材の活用など実施していきたい。</p>
------------	---

## 令和 6 年度 事務事業評価表

事務事業名	5 重層的支援体制整備事業		担当	地域福祉係	事業種別	市受託事業
開始年度	令和 4 年度	計画体系	基本目標 3－実施計画 1－（1）相談窓口の充実、（2）身近で相談しやすい地域づくり、実施計画 3－（6）生活困窮者、複合課題を抱えた世帯の支援 他			
根拠法令等	社会福祉法第 106 条の 3、第 106 条の 4、第 106 条の 5 他					
事業区分	社会福祉事業	サービス区分	包括的相談支援事業			
事務事業目的	複雑化・複合化する地域の福祉課題や狭間の課題を包括的に受け止め、分野・属性を越えた総合的な支援を進めるため、生活困窮者自立支援機関を核とし、高齢、障がい、子ども、生活困窮等の多機関が連携する重層的な支援体制の構築を図る。また、支援を要する人と地域のつながりを確保するとともに、これらを地域全体で支える基盤を構築することを通じて、地域福祉を推進する。					
実施内容	<p>【重層会議】（ ）内は前年度数値</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重層会議開催回数 <u>13回</u> (12回)</li> </ul> <p>【多機関協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間相談支援件数 新規9件 (39件)、年間個人支援回数 延べ<u>1,400回</u> (1,411回)</li> <li>市内社会福祉法人等による相談事業「つながる相談窓口」の実施 27事業所・団体 (28事業所・団体)</li> <li>ふじみ野市社会福祉法人連絡会の開催 7月実施12事業所・団体/2月実施10事業所・団体 (8月実施21事業所・団体/3月実施18事業所・団体)</li> </ul> <p>【アウトリーチ等を通じた継続的支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間相談支援件数 新規1件 (3件)、年間個人支援回数 延べ<u>232回</u> (193回)</li> </ul> <p>【参加支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間相談支援件数 新規6件 (6件)、年間個人支援回数 延べ<u>609回</u> (457回)</li> </ul> <p>【地域づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間支援回数 延べ <u>1,280回</u> (612回)</li> <li>にじいろだよりの発行 6月、8月、11月、2月</li> <li>フードパントリーの実施 7月、12月、多世代交流事業の実施 7月、12月</li> <li>生活支援体制整備事業との連携</li> <li>フードドライブ事業の実施、埼玉県県下一斉フードドライブキャンペーンへの協力</li> <li>地域の居場所「フリースペースふらっと♪」の開催 <u>49回</u> (26回)</li> <li>ひきこもり対象のパソコン教室 毎週金曜日、参加者・見学者 延べ<u>189名</u> (133名)</li> </ul>					

指 標		指標の根拠	単位	区分	R 4	R 5	R 6
成果	社会福祉法人連絡会の参加団体数	前年度実績	団体	目標	37	39	39
				実績	39	23	
成果	つながる相談窓口参加事業所・団体数	前年度実績	団体	目標	26	28	28
				実績	28	27	
活動	年間個人支援回数	前年度実績	回数	目標	3113	2061	2241
				実績	2061	2241	

備考

コスト内訳(円)		R4	R5	R6	
収入	特定 財源	市受託金収入	24,924,717	29,306,200	
		特定財源合計 (a)	24,924,717	29,306,200	
		一般財源 (b)			
	収入合計 (c)	24,924,717	29,306,200		
支出		事業費 (d)	3,139,161	3,973,820	
		正規職員人件費	9,771,600	13,290,600	
		業務量(人)	1.2	1.7	
		嘱託職員人件費	688,670	5,066,100	
		業務量(人)	1.7	1.3	
		臨時職員人件費			
		業務量(人)			
		人件費合計 (e)	16,658,300	18,356,700	
	支出合計 (f)	19,797,461	22,330,520		

単位当たりコスト(円)		R4	R5	R6
単位の定義		年間個別支援回数		
実績数値 (g)		2,061	2,241	
単位当たりコスト(円) (f/g)		9,605.8	9,964.5	
実質収支比率(%) (c/f)		125.9	131.2	

実施状況に対する 評価	<p>当事者からの直接の相談、各分野の関係機関や地域住民からの相談に対し、各制度・関係機関をつなぐことや、地域資源を活用するなど、相談者等の自立に向けた支援をした。また、多機関が役割分担、支援の目標について共有し、協働・連携できるように重層的支援会議を毎月開催した。</p> <p>相談窓口に来所することが難しい相談者や家族、関係機関、地域からの要請に応じてアウトリーチによる支援をし、必要に応じて社会参加等に向けての支援、各種制度とのマッチングをした。</p> <p>地域づくりの推進として、社会福祉法人連絡会を年度内に2回開催し、連携を強化したことで、つながる相談窓口の実施、埼玉県下一斉フードドライブへの協力などのほか、生活支援体制整備事業第2層協議体へ参加する事業所も出てきている。また、ひきこもりや社会的接点の少ない方の居場所として運営しているフリースペースふらっと♪は参加者が増加しており、ニーズを感じるため、開催回数を増やすなどの検討を要する。しかし、受け皿となるボランティアの不足、職員配置の課題があり、改善が必要である。</p>
----------------	---

今後の方向性 【拡充】	<p>引き続き複雑化・複合化する相談や制度の狭間の課題を包括的に受け止め、分野・属性を越えた総合的な支援を進めるため、多機関と連携・協働していく。</p> <p>地域づくりの推進として、社会福祉法人連絡会の開催や生活支援体制整備事業第2層協議体と協力してインフォーマル活動の活性化、組織化を図り、フリースペースふらっと♪の運営ボランティアの育成や開催場所の開拓など社会資源の創出と拡充をしていく。また、地域貢献に取り組む民間企業の新規開拓や、継続した連携を図り、官民連携にて支える地域づくりを目指す。</p>
----------------	--